

第3学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「わたしのさいこうの一日 / つづけてみよう」 教材名「わたしのさいこうの一日 / つづけてみよう」

2 単元の目標

様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)オ）

相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）

自分にとって最高だと思う一日を想像し、出来事のまとまりを考えて書く学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)オ）	①「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）	①自分にとって最高だと思う一日を想像し、出来事のまとまりを考えて書く学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

自分にとって最高だと思う一日を想像し、出来事のまとまりを考えて書く。この教材では、想像した一日の出来事と中心場面を表した文章を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

想像した材料を先に言葉や絵にし、今回詳しくする場面を選ぶ。実体験の有無を評価にしない。想定する難しさは、出来事を並べるだけで何を楽しみにしているかが伝わらない。評価では、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを、想像した一日の出来事と中心場面を表した文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 想像した出来事を並べ、中心の場面を選ぶ。初め・中・終わりのまとまりを確認め、友達が楽しさを感じた表現を聞いて書き直す。読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「一日のどこを中心にとすると、伝えたい楽しさが分かりますか」 【めあて】自分にとって最高だと思う一日を想像し、出来事のまとまりを考えて書く。 〈予想される児童の反応〉 ・全部の出来事より、いちばん楽しみな場面を詳しくしたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「一日のどこを中心にとすると、伝えたい楽しさが分かりますか」 想像した出来事を並べ、中心の場面を選ぶ。初め・中・終わりのまとまりを確かめ、友達が楽しさを感じた表現を聞いて書き直す。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・全部の出来事より、いちばん楽しみな場面を詳しくしたい。 ・終わりの文で最高だと思う理由を伝えたい。	想像した材料を先に言葉や絵にし、今回詳しくする場面を選ぶ。実体験の有無を評価にしない。 想定する難しさ：出来事を並べるだけで何を楽しみにしているかが伝わらない。 評価では、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしているかを、想像した一日の出来事と中心場面を表した文章と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 想像した一日の出来事と中心場面を表した文章を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・終わりの文で最高だと思う理由を伝えたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「一日のどこを中心にする
と、伝えたい楽しさが分かりますか」。中央は、想像した一日の出来事と中心場面を表した文章に必要な言葉・
材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて
気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

